

令和6年10月7日

東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所

令和6年度 第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会を開催しました

仙台港湾空港技術調査事務所では、東北港湾を取り巻く情勢や課題の変化を踏まえ、東北港湾ビジョンの実現と地域が抱える技術的問題やニーズへの対応を目指して「東北港湾の技術ビジョン」を策定するため、令和6年度 第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会を9月26日（木）に開催しました。

東北地方の港湾は、東日本大震災からの復興、東北の地方創生、グローバル化の進展への対応など広域的視点からの取組みを支えるため、国内外の海上輸送の結節点という港湾の特性を十分に発揮できるように港湾における技術課題の克服に向けた取組みが求められております。

東北港湾を取り巻く情勢や課題の変化を踏まえ、東北港湾ビジョンの実現と地域が抱える技術的問題やニーズへの対応を目指して「東北港湾の技術ビジョン」を策定するため、令和4年度から東北港湾の技術ビジョン検討委員会を設置し、令和6年度に「東北港湾の技術ビジョン」を策定する予定です。

令和6年度第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会の開催概要は下記のとおりです。

記

1. 日 時：令和6年9月26日（木）13：00～15：00
2. 場 所：国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 AB 会議室
（仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台合同庁舎 B 棟 9 階）
3. 議事内容：別紙1のとおり
4. 構 成 員：別紙2のとおり

〔発表記者會〕宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所

副所長：鬼嶋 充 調査課長：長峰 亮

TEL：022-791-2116（直通） E-Mail：pa.thr-i-gicho@mlit.go.jp
（※●を@に変えてください。）

令和6年度 第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会

日時：令和6年9月26日（木）13時00分～15時00分

場所：仙台合同庁舎 B棟9階 港湾空港部 A・B会議室

議事次第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 出席者紹介

4. 議 事

（1）検討の流れと指摘対応について

（2）東北港湾の技術ビジョン骨子について

- ・技術ビジョンの骨子修正
- ・技術項目の個表（目的、取組テーマ、イメージ図等）

（3）今後の審議事項について

- ・取組時期、取組体制、技術ビジョン冊子

（4）今後の予定について

5. 閉 会

令和6年度 第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会 名簿

	氏名	所属	職名	備考
委員長	小笠原 敏記	岩手大学 理工学部 システム創成工学科	教授	
委員	南 将人	八戸工業高等専門学校 環境都市・建築デザインコース	教授	
委員	泊 尚志	東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科	准教授	
委員	浜岡 秀勝	秋田大学 理工学部 システムデザイン工学科	教授	
委員	砂田 洋志	山形大学 人文社会科学部 経済・マネジメントコース	教授	
委員	岩城 一郎	日本大学 工学部 土木工学科	教授	
(行政)				
委員	奥田 隆	東北地方整備局 港湾空港部	港湾空港企画官	
委員	大亀 寛	東北地方整備局 港湾空港部	計画企画官	
委員	佐々木 均	東北地方整備局 港湾空港部	事業計画官	
委員	福田 良介	東北地方整備局 港湾空港部	技術企画官	
委員	齋藤 靖	東北地方整備局 港湾空港部	海洋環境・技術課長	
委員	日向 幸紀	仙台港湾空港技術調査事務所	所長	

(順不同、敬称略)

議事概要

令和6年度第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会

日時：令和6年度9月26日（木）13:00～15:00

場所：仙台合同庁舎B棟9階 港湾空港部 AB 会議室

【議事概要】

- ・ 前回、令和5年度第2回東北港湾の技術ビジョン検討委員会での指摘事項に対する資料修正等について説明し、意見交換を行った。
- ・ 技術ビジョンの骨子案の修正について説明し、意見交換を行った。
- ・ 技術項目の個表（目的、取組テーマ、イメージ図等）について説明し、意見交換を行った。
- ・ 今後の審議事項について、資料作成のイメージ等の説明し、意見交換を行った。

<議 事>

- （1）検討の流れと指摘対応について
- （2）東北港湾の技術ビジョンの骨子について
 - ・ 技術ビジョンの骨子修正
 - ・ 技術項目の個表（目的、取組テーマ、イメージ図等）
- （3）今後の審議事項について
 - ・ 取組時期、取組体制、技術ビジョン冊子

【委員からの主な意見】

- ・ 能登半島地震の経験を踏まえた内容がいくつかあるが、他にも漏れがないか確認すること。
- ・ 全体的に観光の要素が少ないため、入れることができないか。浚渫土を有効活用した人工干潟は、観光に寄与する観点からもよいと思う。また、クルーズ船の陸電も追加してはどうか。
- ・ 洋上風力や再生可能エネルギーに関する博物館や人材育成施設など観光施設的なものを追加してはどうか。
- ・ 新技術と既存技術を分類するのは難しいと思うが、「過去に無い新技術」は明確に示すような観点で整理していただきたい。
- ・ 技術ビジョンは公表されるものなので、理念は港湾関係者に限定せず、技術開発の主体を冊子の中で示す必要があるのでは。
- ・ 技術ビジョンの達成状況や見直し、チェック体制をどのようにするか検討した方が良いか検討して頂きたい。
- ・ 技術ビジョンの取組体制について、観光に関する資源や体制との関係を入れることはできないか。

以上